

全員協議会会議録

- 1 日 時 平成30年8月1日(水)
10時00分開会 10時43分閉会
- 2 場 所 役場3階第2委員会室
- 3 出席議員 大谷昭宣・桜井崇裕・北村光明・高橋政悦・佐藤幸一・原 紀夫
口田邦男・中島里司・奥秋康子・安田 薫・西山輝和
議長：加来良明
- 4 事務局 事務局長：佐藤秀美、係長：宇都宮学
- 5 説明員
- 6 議 件
 - (1) 議会活性化特別委員会からの報告事項について
 - ・議員定数、議員報酬について
 - (2) その他
 - ・清水町公式フェイスブックの投稿について
- 7 会議録 別紙のとおり

加来議長： 全員協議会を開会する。連日暑い日が続いている中恐縮ではあるが、議会活性化特別委員会の報告事項について。昨日、議会活性化特別委員会が開催され方向を出したので協議していきたいと思う。

議件1 議会活性化特別委員会からの報告事項について

・議員定数、議員報酬について

加来議長： 議件1の議会活性化特別委員会からの報告事項について。これまで皆さんにご協力いただきアンケートを集めたが、その結果のまとめができていますので協議に入る前に15分程度アンケートに目を通す時間をとる。休憩する。

【休憩 10:01】

【再開 10:16】

加来議長： 再開する。昨日議会活性化特別委員会が開催された内容について原委員長から説明報告をお願いする。

原委員長： アンケート調査を依頼し大変苦勞されたことだろうと思う。最終的に400件を超える件数を集めることができた。スタート時は委員長としてより多くの数を集めたいという思いもあったので、30件ずつお配りしたがその後追加をして少なくとも1,000件くらいはという感じでしたが、なかなかそのような数には至らなかった。アンケートを集める中で相当大変なものだという認識もしたので、400という数を集めること自体も大変なことだと自覚をしたところ。事務局に集計していただきいろいろな要望等も含めて皆さんのお手元にお配りをしている。107件に及ぶ要望等が出てくるとは予想だにできなかった。封をして出しているのいろいろな思いを書いていたのかと思うし、今後この要望等についてはそれぞれの議員がしっかりと受け止めて生かしていくべきものだろうと考えている。議員報酬については、試算の額より36.0%、現在のままで32.6%、試算の額より更に上げるが14.1%であった。昨日、議会活性化特別委員会を開き、それぞれの委員の考えも尋ね、最終段階でどのようにするかという結論になった際に3名から試算した額で決めたらどうだという話もあった。私が委員会の前段の中で、以前行われた議会報告会の中でも色々な意見があったし、それを踏まえて今回の400件というのは人口の4.3%程度と相当低いものであるので、少なくとも数字の中で出ている50・60%の方から20万3千円でいいという意見がいただいているのあれば私は問題ない部分もあったと思うが、どうもその辺を考えるとちょっと弱いということを申し上げた。種々委員に相談をした結果、最終的に今回の特別委員会の結論としては額を上げずに現状維持のままとし、執行側にアンケート調査の資料等々を提供して他の特別職の報酬等を含めて検討を依頼することが妥当ではないかということに最終的に落ち着き今日を迎えているので、そのことについてご理解を賜りたい。

加来議長： 定数の件についても報告をお願いします。

原議員： 定数については現在のままでいいというのが68.1%、現在より減らすというのが25.5%、現在より増やすというのが3.4%あった。加えて前回の議会報告会と意見交換会の中でも現在のままでいいというのが58.6%、現在よりも減らすのが27.6%、現在より増やすのが6.9%だったので、広報聴常任委員会が増えたということも踏まえて我々特別委員会として現状の13人のままという結論付けをしている。

加来議長： ただいま原委員長から定数と報酬について報告があった。最初に定数について、委員会の結果は現状の13人ということで方向を出していただいた。その点について何かあればお受けする。

(なしの声あり)

加来議長： ないようなので、定数については13ということでよいか。

(よいという声あり)

加来議長： 議員定数は13ということで決定した。

次に、議員報酬について。委員長からの説明では現状維持で今後執行側に他の特別職の報酬等に

ついて検討していただくように議会として依頼していくという協議の結果が出たということだが、この件について何かあればお受けする。

口田議員：結果的には意外だったというのが本音。最終的に議会活性化特別委員会ではこのままで値上げはしないという方向でいくことについて、結果的にこれを執行側に見せて判断を委ねるといことなのか。

原議員：そのとおり。実はその前段で現状維持が適切なのかどうか第三者機関である特別職報酬等審議会に判断を委ねたらどうだという意見もあった。特別委員会としては、数字を示さずに審議会を開いてもらうということは過去にもないということ踏まえて、やはりそれは無理だろうということで相当悩んだ結果、最終的には議長の助言もいただいた中でこういうまとめをさせていただいた。加えて今回のアンケートの中に町長の報酬が低いという記入もあったが、議員報酬だけに手をつけ、町長以下、農業委員会を含めたその他の特別職には一切手をつけないということになると、またいろいろと町民からも問題が提起されたりはしないかということも私のほうから提案させていただいたりして非常に苦労してここに至ったという経過である。

口田議員：分かった。議会としてはこういう結果が出たが、これを見て執行側がやはりもう一度考えなくてはならないという方向で審議会を開いて検討していくということになれば話は別か。そういうふうに導く方法を考えているのか、それとも議会はこの面ではタッチしないからあとは任せるということなのか。

原議員：まだ全員協議会の中で決定をしていない段階なのでいかんともしがたい状況であるが、今回のアンケートの結果だと、今まで議員間の中で必要としたような資料も合わせて執行側に提出してその判断を仰ぎたいということ。

口田議員：執行側に委ねるといのは分かった。でも、その委ねるのに議会としてはどう考えているのかということになればどうということになるのか。

原議員：最終的には特別委員会の中で多数決の原理でどちらにするかということを決めるというのも一つの方法かもしれないが、やはり私は集めた町民の意思として示されている数字があまりにも低すぎるということが気になっており、今回アンケートを取った中でもはじめから議会が上げるためにやっているのだろうということを相当言われたりもした。議会報告会の中でもそういう話がされているから、やはり町民が理解するにはどうしたらよいかということ考えたときに相当悩ましい問題になるということなのでこういう結果にした。

加来議長：ほかに質疑・意見があればお受けする。

中島委員：原委員長や委員の皆さん方がご苦労されているいろいろ検討していただいてここまで来たのかと思う。今原委員長のお話を聞いて、「アンケート調査を終えて特別委員会ではそれを尊重するから答えは出せない」と聞こえた。批判ともどう捉えられても構わないが、私はこれが今の流れなのかと思う。ある程度ここまで来て、これを尊重するということは何もしないということ。元々立場や年齢が違えば色々な考え方を持っているからこのぐらい出てくるのかという感じはする。この文章に目を通した中では、正直言って何も理解されていない。理解させるように我々がしなくてはならないという裏返しでもある。そういう部分から言ったらこういうアンケートを取った場合に一つ一つとは言わないが説明責任がある。意見交換会で報酬を上げる前提かという質問があったが、私は正直言ってあのときにその意思があれば、上げる前提で検討していると言っても良かったと思う。上げるか上げないか町民に委ねると、これだけいろいろな考えを持っている方がいる中で、どうやってまとめられるのか。町民に対するうちの議会として報酬を上げたいという前提であったほうが良かったが、こういうアンケートを取った以上議会として説明責任が発生する。だけど今の結論では説明責任を果たさずに行政や審議会に委ねると聞こえる。

原議員：中島議員の言われることに反対する気もないし間違っているとは全く思わない。私もこの委員会でアンケートを取る際に、町民全員にアンケートを取りたいという思いがあった。そういうかたちでできれば全町民にアンケートを取った結果何%の方が賛成しているので上げる方向だということはいき切れるが、今回は相当少ない数で終わっているのがここが私は大きな問題だろう。加えてこれから、来年ここにいる方が全員次期どうなるか分からないが、また来年議会報告会をやった際に「我々が言ったとおりになったではないか」ということも必ず出てくるのではないかということも含めて、逃げの姿勢ではないが町民がどのようなかたちにしたら納得するのかというところ少しでも近づける努力をする中で最終案をこちらで持ってきたということ。

中島議員：ここで議論をしても致し方ないこと。委員長は第一希望として全町民からアンケートをもらいかけた現実には思っているのか。全町民からアンケートを集めることができる時間や費用、議員

の動きを考えると。これはコンサルや何かに出すわけではないから。現実に全町民という言葉は格好が良いが、全町民にお願いできる状況下にあるか。建前はそうかもしれないが、議員としては現実問題を踏まえなければならない。私は何%だから良い悪いではなく、これを結果として尊重しながら議員として説明しなければならない。「下げてほしいと言っていたのにそのままではないか」という意見が町民から来たらそれを説明しなければならない。それが役割。説明責任という言葉は出てこないが、議員は絶えず持っていると思っている。今この結果を受けたことによって、特別職報酬等審議会のほうに判断を委ねるという答えではないのか。

加来議長：報酬審議会ではない。執行側に伝えるということ。どう取り扱うかは執行側の判断。

中島議員：町の執行側にこのアンケート結果を報告してそれに続いてどう取り組んでいただけるかということか。だったら最初からそうやってやればよかったのではないかと。

佐藤議員：今回の議会活性化特別委員会委員の一員として申し上げる。全町民からの意見をいただきたいということでお知らせ版なり町の広報なりでご意見をいただくという話もあった。そういった点では予算がなくお金がかかることはできないということと断念をした経緯もある。そういった中でどう絞ったらいいいのかとかたちの中で進めていったら今委員長が言ったようなかたちになった。全町民からいただいたわけではないが、おそらくいろいろな人と相談しながらのご意見もあったのではないかと考えている。

加来議長：当然このアンケート結果を昨日の特別委員会の中で委員の皆さんに読んでいただいて分析して協議していただいている。

中島議員：ここまで頑張ってきたのだから自分たちのものにしていきたいという思いがあった。最終的な結論は逆らうわけではない。金がないからできないのは最初から分かっているのだったらそういう言葉を言わないで1人でも多くの方からもらった答えがこうだったでもいいと思う。答えをいただいたのだからこれによってどう判断されたかについて、方向性を示してくれると思ったので、委員長からの報告に対して私は期待していたところがあったものだから。そういうことで今意見を言っているのもあって、委員長が報告したことに対して賛成反対ということではない。いただいた意見で十分協議できるという捉え方をさせていただければと思っていた。

加来議長：委員会の結果は現状維持という結果。それ以外にせっきゃくこういうアンケートを取ったので、執行側にも情報を提供した上で考えていただこうと。強制でも何でもなくそういうかたちだけとはったほうがいいのかということ。

原議員：説明責任の関係で、私も当初考えていたのは議会報告会と今回のアンケートの結論がどうなるかは分からなかったが、最終的に報酬を上げるとなったときには理由を明確にしないと町民は納得しないということで、昨日の特別委員会で上げるべきだという方にはどういう理由付けで上げるということになるかという話までいろいろと波及して話をした。そこが一番重要なところで、町民もそういうことをしっかりと受け止めて納得した上でないと議会としても困るだろうということは私も認識をしている。

加来議長：ほかはないか。

(なしという声あり)

加来議長：ないようなので報酬については委員長が報告したとおり現状維持。資料等を執行側に提供し、ほかの特別職の報酬等も含めた検討を議会として依頼していくということによいか。そのように決定する。議件1についてはこれで終了する。

議件2 その他

・清水町公式フェイスブックの投稿について

加来議長：清水町公式フェイスブックの投稿について。6月中旬から議会としても情報提供に取り組もうということになっていたが、いろいろあったのでこのことについて事務局から説明をお願いする。

佐藤局長：広報広聴常任委員会で協議して全員協議会でもご相談した中で、清水町公式フェイスブックに議会情報を提供することになり、6月15日以降約1月間、議会の本会議だとか委員会等の情報を投稿してきた。この投稿は良かったが、町のプロジェクトチーム会議で、町の投稿も含めて「いいね」が少ない、反応が悪い会議室投稿については今後行わないという方向になった。議会は会議室投稿がほとんどの状況なので今後清水町公式フェイスブックへの投稿については行わないということになり、広報広聴常任委員会へもその旨の報告したところ。

加来議長：そのように決まったのでよろしく願います。その他何かあればお受けする。

(なしという声あり)

加来議長：これで全員協議会を終了する。